

思いがけない白内障手術

■きっかけ

老眼鏡の検査に出向いて、視力検査等をしてもらいました。そこで「左目に白内障がある、手術をしたほうが良い。」と医師から言われました。

自分では全く意識していなかったのが驚きました。家族をはじめ自分自身も手術の経験はありませんでした。「今すぐ必要ですか。」との問いに医師は、「80歳になってするより、よいでしょう。早い方は40歳代でもしています！手術は15分~20分で済みますよ。」と厳しいお達しでした。そして、白内障についての説明書と手術の同意書を渡されました。覚悟を決めて手術をする事にしました。そこで、白内障について調べて見ました。

■白内障とはどんな病気？

発生原因 糖尿病などの疾患、ステロイド等の特殊な薬の影響、外傷などによるもの
加齢によるもの

加齢による白内障は自覚がない場合が多いです。早い人は40歳代、80歳を超える頃にはほとんどの人が何らかの白内障の状態になっており、90歳を越える頃には、ほぼ全員が白内障になっているということです。

■どんな症状？

白内障は水晶体が濁る病気です。水晶体は人間の眼の中にある組織で、外から入ってきた光を屈折させて網膜に像を写すカメラのレンズのような役割をします。大変重要な組織です。白内障は、現在のところ手術以外では治せないということです。

■いざ、手術

一度白内障になってしまったら、薬では治せません。白内障の治療は、濁った水晶体を取り出し、新たに眼内レンズを挿入する方法で行われるのが一般的、ということです。

手術の前

手術の日が決まりました。前日に視力検査がありました。

手術当日

まず手術の同意書、本人と親族(私の場合は配偶者にしました)を提出します。そこには誰かが

付き添ってとありました。当日は手術日で、外来の患者はいませんでした。一人で来ている人もいました。手術着に着替えるので前開きの衣類で、帰りは付き添いが必要とありました。一人ではいけませんかと尋ねたところ、「では私が付き添います。」と看護師さんが言いました。術後は大きな眼帯をかけるので、不安定になるので歩行中に何かあるといけないので付き添いが必要と言うことでした。結局家族が行き帰り付き添ってくれることになりました。

<手術開始>

手術の1時間前にクリニックに行きました。既に何人が待機していました。手術着に着替え、瞳孔を開く点眼薬を投与、血圧測定をして待ちます、血圧の高い人は血圧を下げる薬を使っていました。いよいよ手術室に入りベッドに横になります。左目に麻酔の点眼薬が投与されました。顔全体をマスクのようなもので覆われたように感じました。左目の部分が開いているようでした。濁った水晶体を粉碎して吸引、新たな眼内レンズを挿入するのです。挿入した眼内レンズは取り替える必要がないほど長く使えると説明されました。痛みは全くなく左目は丸い光が見えていました。下を向いて、左を見てなどの指示がありました。バックグランドミュージックも流れていました。NHKの新映像の世紀のテーマ音楽でした。個人的にはもう少しやさしいメロディーがいいな—と思いながら聞いていました。「済みましたよ。」といわれ控え室の戻り、血圧を測りました。しばらく休んで、会計を済ませ付き添いと帰宅しました。手術は保険が適用になります。総額で約15万円、保険分を負担します。

<手術後>

その日は痛みがあったときの服用する頓服薬と抗生剤が出されました。痛みはなかったので頓服薬は使いませんでした。入浴は翌日可能、洗髪、洗顔、飲酒、重いものを持つことは1週間禁止です。パソコンも同様です。食べ物は刺激の強いもの意外は特に制約はありません。翌日診察を受け、問題がなかったので眼帯は取れました。その日から1日3種類の点眼薬を朝、昼、夕、就寝前(ここは2種類)を5分おきに点眼します。タイマー片手に頑張っています。視野が明るくなったか、といえばその実感はありません。人によっては1~2ヶ月かかるとの事です。

手術時間は20分にも満たない短いものでしたが、予後には充分注意が必要だと実感しました。しかし視野が明るくなり生活が快適になるならば、時折眼科の診断を受けることは良いことだと実感しました。

(以上)